

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

訪問調査日	平成20年 10月 10日
調査実施の時間	開始 10時 30分 ~ 終了 15時 20分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 美楽居 (鹿児島県)
-------------------	-------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u>
	氏名 <u>浜田 千里</u>
事業所側対応者	職名 <u>計画作成担当者</u>
	氏名 <u>小山 裕子</u> ヒアリングを行った職員数 4名

※記入方法

●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。

●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

●外部評価項目は30項目です。

○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。

○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月13日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670800269号		
法人名	医療法人 吉祥会		
事業所名	グループホーム美楽居		
所在地	鹿児島県出水市平和町347 (電話) 0996-63-8000		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年10月10日	評価確定日	平成20年11月15日

【情報提供票より】 (20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年5月20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤10人, 非常勤5人, 常勤換算13人	

(2) 建物概要

建物構造	木造モントル	造り
	1階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1		要介護2		2 名	
要介護3	11 名	要介護4		4 名	
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 88.7 歳	最低	83 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉井中央病院・福留歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の中核的医療法人が設立したグループホームである。建物はゆったりとした明るい構造となっている。同法人の病院や老人保健施設などと隣接し、医療・福祉面からのバックアップが充実している。人材育成に積極的に取り組み内外の研修の受講や認知症ケアの専門家としての資格取得にも支援している。ホーム内では入居者のその日その日の思いや意向に沿って対応し、安心して笑顔で暮らせるように支援をしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念については、職員で話し合い、項目のねらいを理解した上で、同法人の施設と共有理念の継続を決めている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は、評価の意義や各項目ごとのねらいなどを勉強会を通じて理解している。自己評価は、全職員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、ホームでの行事や取り組み・評価などの報告をして、そこでの意見を質の向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	受付担当者及び解決責任者を設置し、具体的対応が明示されている。入居時に第三者委員の設置や意見箱について説明している。家族等に意見が言いやすい雰囲気づくりも配慮している。来訪時に意見や要望などを伺いそれを記録し、毎月クレーム委員会で検討し運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	祭りや文化祭などの地域行事や法人合同の夏祭りでの交流、学生の実習や地元のボランティアの訪問、地域での買い物、地元の人々との交流、認知症についての講習の引き受けなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。地域住民へ災害時の協力の依頼を行なっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念について全職員で話し合い、地域密着型サービスとしての役割を理解したうえで老人保健施設との今までの共有理念の継続を決めている。ホーム独自に毎年品質目標を設定して、職員の専門性の向上と入居者・職員の笑顔あふれるホームを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の明示や唱和などにより職員は理念を共有している。毎年度の目標は、職員で話し合い定めている。具体的に職員研修の工夫や充実を図りながら理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りや文化祭など地域の行事や法人合同の夏祭りでの交流、学生の実習や地元のボランティアの訪問、地域での買い物、地元の人々との交流、認知症についての講習を引き受けるなど地域との交流に積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は勉強会を通じて、評価の意義や各項目ごとのねらいを理解している。自己評価は全職員で取り組んでいる。外部評価後は職員への報告や話し合いを行い、質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームでの行事や取り組み・評価などの報告をし、そこでの意見を質の向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは常に相談連携を図っている。ホームの運営上の助言や地域のグループホーム連絡協議会の協力助言など協働関係が築かれ共に質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	美楽居新聞や個々の近況報告書により、定期的にきめ細かく入居者の現況など報告している。状況に応じて随時、家族の訪問時や電話連絡などで報告している。金銭管理は個々にそのつど適切に報告している。職員の新人紹介は美楽居新聞で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付担当者及び解決責任者を設置し具体的対応が明示されている。入居時に第三者委員の設置や意見箱について説明している。家族等に意見が言いやすい雰囲気づくりも配慮している。来訪時に意見や要望などを伺いそれを記録し、毎月クレーム委員会で検討し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初からの職員も多く、法人内の異動も馴染みの関係作りを考慮して最小限に抑えている。代わる場合には、法人の新人研修、グループホームでの先輩職員との同行支援、職員同士の連携を図るなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、職員の自己評価や面接を行い、個々の目標に応じた研修を計画し実行している。毎月の内部研修は担当者がテーマを決め実施、外部研修、法人研修など積極的に受講し情報は共有されている。資格取得に向けた支援も積極的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会を立ち上げ、研修や交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族と面談している。本人のホームへの見学も勧めている。中にはサービスがいきなり開始になる場合もある。入居後は声かけや入居者同士のつながりを見守り、家族や関係者などと相談をしながら馴染んでいけるよう対応している。		まれではあるが、いきなりサービスが始まらないような体制や工夫が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から調理の仕方や園芸などを学び、入居者も職員をいたわるなど、支援する側、される側にとわられない支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を表現しやすい雰囲気づくりに努めている。表情や言動、ジェスチャーを交えたコミュニケーションなど工夫しながら思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の個別の記録やアセスメント・担当者会議など経て、本人・家族・職員・主治医などの意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に介護計画は認定期間に合わせている。毎日の申し送りや記録などの状況把握に努め、1ヶ月や3ヶ月毎のモニタリングで評価をしている。状態変化に応じて、本人・家族・職員・医師などと話し合い新たな計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間の医療連携体制を活かした健康管理や入院の回避、理学療法の利用や通院支援、お墓参りや入居者の馴染みの場所への訪問など本人・家族の意向や状況に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医や医療に対する希望などを把握している。本人・家族の希望を大切にしながらかかりつけ医の受診を支援している。往診や訪問看護・通院・理学療法など家族と職員・各医療機関と相談連携を図りながら適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の対応指針の説明をし、本人や家族等の意向の確認をしている。状況に応じ、家族・医療機関・職員など随時話し合いを持ち方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法や接遇研修には全職員が参加し学んでいる。朝礼時に接遇マニュアルの読み合わせを行なうなど日常的に職員の意識向上や徹底が図られている。言葉かけや対応・書類等の保管など配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、入居者の表情や言動を把握し、起床・入浴・外出・食事・就寝・気晴らしなど、日々、その人らしい生活ができるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の好みや旬の食材を採り入れ、入居者が調理に参加しやすいように簡単な団子づくりやごますりなどの工夫や配膳など状況に応じた役割づくりで支援している。入居者と職員は一緒に楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は設定せずに、希望や状況に応じて毎日入浴ができる。入浴の好みも把握し個別に応じた入浴がされ、入浴時間も状況に応じて柔軟に対応している。入浴がおっくうな入居者には、声かけ誘導を工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴や力を活かし、裁縫や園芸・掃除・食事時の当番などの役割やドライブ・散歩・レクリエーション活動などの外出支援や新聞・テレビ観賞や食事会・祝日のお祝い食など楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩・ドライブなど入居者の希望や状況に応じて、個別や少人数で日常的に外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵をかけないケアを実践している。さりげなく見守り、寄り添い安全に配慮しながら束縛しないように取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を問わない想定で、避難訓練を定期的実施している。地域住民の協力も運営推進会議を通して行なっている。備蓄は法人の隣接施設にて保管している。台風などに備えホームでも随時、飲食物などの確保をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は毎食のカロリーを考慮した献立を作成し、食事摂取量・水分摂取量の把握もしている。定期的に栄養士に栄養バランスの助言を得ている。刻み食やおかゆ・嗜好品など一人ひとりの状況に応じ、食がすすむような工夫や配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、明るくゆったりとしている。季節感を採り入れ、音や光にも配慮がされている。台所・食堂・居間と空間が一体化しながらも、それぞれの居場所でゆっくりくつろぐことのできる家庭的な温かさがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に使い慣れたものの持込みのお願いはしているが、ホームの準備した家具やベットなどを利用して居心地よく過ごしている。入居者の状況に応じてベットを利用しないなど配慮をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。